時事新報

朝鮮國王と露國公使

去月十一日の政變に朝鮮國王は宮中を脱して露國公使館に行きたるまゝ今に歸らず一切の政令も同館の中より出でて王の一擧一動は恰も公使の手中に存するの姿なれば右するも左するも只他の命ずる儘にして如何なる約束も容易に行はれざるを得ず左れば實際に朝鮮を擧て露の保護國と爲すは申す迄もなく或は元山津の遠なぞは既に他の版圖に入りたるも知る可らずなぞ竊に疑ふものもわらんなれども我輩の所見は全く別にして實際に事の必無を斷言するものなり抑も國王が露國公使館に投じたるは過日の紙上にも見えたる通り李範晋等に欺かれたるものにして王は公使に接して其挨拶の意外なるに驚きたると同時に公使も亦王の言を聽て意外なるに驚きたる其驚きは双方ともに同樣にして茲に始めて事の行違ひを發見したるにぞ王は今更ら夢に夢見たる如く何故に宮中を抜出したるか自から惑ふばかりにして一日も早く歸りたきは山々なれども本來優柔の性質として又一方に範晋等の言を聞けば其決斷も容易ならず今は一心の思案に餘り日夜涙に暮るゝのみにて外國公使なぞが謁見の折にも頭を低れて無言の有樣なりと云ふ此事實を見ても露國公使が故意に國王を誘出したるの跡なきは明に知る可し又彼の政變に就ては公使と本國政府との間に何か打合せにてもありたるやと云ふに本國にては只事の必要に由り水兵を上陸せしめたりとの報に接し次で國王自から公使館に來りしとの通知を得たるのみにして實際の事情を詳にせず況して前以ての打合せなぞは斷じて之なしと云ふ我輩の聞き得たる處にして慥に事實を保證するものなり左れば彼の事件に就ては露國政府は毫も與り知る所なく只京城駐在の公使が臨機の計ひにて自から身を投じ來りたる國王を館内に留めたるまでの事に過ぎず其間に外交上の意味なきは以上の事實に徴して明白なる可し假りに一歩を讓り國王の潛幸は單に李範晋等の詐欺手段のみに非ずして露國人も實際、事に參して何か利せんとするの目的に出でたるものなりとせんか今や王の一身は恰も拘留の姿にして一歩も館外に出るを得ず側に侍するものとては李範晋等の如き小輩のみにして王の意志は全く行はれず現に自身に知らざる詔勅さへも發する程の次第なれば若しも此際露人に一點の野心あるに於ては何事か成らざるものわらんや讓地の約束を爲さしむるなり借金の證文を書かしむるなり只命のまゝなるは勿論、或は極端を云へば恰も小兒に等しき國王の事なれば其生命を貰受可しとの文言を横文字にて認め之に調印せよと云ふも必ず甘んじて其言に從ふべしとならん生殺與奪、意の如くならざるはなしと雖も斯くては監視手段も餘りに程を過ぎて世界の人目を如何す可きや露國にして果して朝鮮に志わらんには正々堂々世界の表面に之を行ふの手段なきに非ざるに恰も懷に入りたる窮鳥を捕へて窮策を行ふが如きは外交に拙みなる露人の決して爲さゞる所なる可し少しく知見あるものゝ容易に認む可き所にして露國人が此際に意して敢て斷言して疑はざる所なり

朝鮮の暴徒を鎮壓す可し

朝鮮暴徒の騒動はます〳〵物騒にして日本人の害に遭ふたるものも少なからず昨今は居留地さへも危險の掛念ありとて日夜警戒に怠りなしと云ふ抑も彼の暴徒は最初は政府に向て王妃を害したる罪を問ふが爲めなりと云ひ又は斷髪令に不服なりなぞ唱へながら彼の去月十一日の革變にて政局一變の今日は新政府の當局者が國王を外國公使館に連行たるものなれば君側の奸を掃ふ可しと聲言するよし其口實は兎も角も事の實際は百姓一揆の騒動に過ぎずして昨年來彼地に在りたる日本の守備隊を次第に引揚げたるより其虚に乘じて亂暴を逞ふするものに外ならず自から他國の内事とは云ふもの〳〵現に日本人にして難に罹りたるものありと云へば更に我國より兵隊を派遣し鎮壓に從事せしむるも可なるが如くなれども外交の事は甚だ微妙にして兵を動すは容易ならざるのみか或は遭難の日本人の如き實際を取調べたらば種々樣々入組たる事情を存して短刀直入單に局部のみを問ふ可らざるの意味もわらん我輩は此一事に就ても陰陽表裏に觀察を逞ましして聊か知る所なきに非ざれども特に外國交際の機を重んじて獨り竊に待つ所ありしに今日は外交の成行も既に明白と爲りて一點の疑念を存せざるのみか暴徒の勢はます〳〵猖獗にして居留地の安危さへも頗る掛念に堪へずと云へば最早や遠慮す可きに非ず相當の兵員を出して不虞に備ふるは勿論、或は時宜に據りては正當防禦の爲め暴徒の巣窟を一掃するも臨機の處分として止むを得ざるの手段なる可し我輩は政府に向て其決斷を勸告するものなり

雜報

○ジョン ポインツ スペンサー伯　今度我國に渡來したる英國前海軍大臣スペンサー伯は一千八百三十五年に生れたる先代スペンサー伯の一人子にして若年の頃ケンブリッヂの學校に於て教育を受け一千八百五十七年卒業して其年の春直ちにノルサンブト ン州の南部より撰出されて衆議院に入りしが同年の暮父伯爵の卒去したる爲め其爵位を嗣ぐやと〳〵爲りて衆議院を辭し其後一千八百五十九年より一千八百六十一年までは英國皇帝の侍從を勤め又同六十二年より六十七年までは皇太子殿下の侍從たりしとかや翌年グラッドストーン氏内閣を組織する時入りて愛爾蘭大守と爲り同七十四年グ氏と共に辭職して一千八百八十年の更迭には又入りて樞密院の議長と爲り同八十二年には再び兼任にて愛爾蘭の大守に擧げられたりしが此時愛爾蘭の情態は甚だ不穏にしてスペンサー氏ダブリンに到着のダブエニッキス公園に於て新任の愛爾蘭事務大臣なるカヴェンゲッシュ侯幷に次官ボルク氏暗殺の禍に逢ひたれば愛爾蘭の事務はスペンサー氏一人にて措置せざるを得ざる場合と爲れり依て本官の樞密院議長を辭したれ共尚は内閣員たるを失はずして一千八百八十五年の更迭まで繼續し翌年再び更迭に逢ひし時は前官を嗣で樞密院議長たりしが此時英國の問題たりし愛爾蘭自治案には熱心の賛成者にして該案は遂に通過せざりしも爲めに愛爾蘭人が同氏に望みを屬したるや明かにして八十三年には ダブリンの大學校よりエル エル デーの稱號を贈りたり又其後の更迭にて内閣にありしは一千八百九十二年にして海軍大臣と爲りしが昨年の更迭にてローズベリー伯と共に其地位を退きたりといふ

○門司の土佐丸歡迎　歐洲初航汽船土佐丸は去る二十三日午前六時門司沖に投錨するや門司の有志者は豫て用意の煙火を打揚げ小蒸汽船六隻に滿船飾をなして一同之に乘込み別に和船二艘を仕立て小學生徒之に乘込み樂隊の奏樂と共に土佐丸に近き同船を三四週して祝意を表せり又馬關の有志者も同樣小蒸汽船四隻及び和船二十餘艘に分乘し皆滿船飾をなして同じく土佐丸の周圍を三四度も廻り樂を奏し煙火を打揚げ盛に祝意を表したりと云ふ

What sum divided by 9 leaves 8? What sum divided by 8 leaves 7? What sum divided by 7 leaves 6? What sum divided by 6 leaves 5? What sum divided by 5 leaves 4? What sum divided by 4 leaves 3? What sum divided by 3 leaves 2? What sum divided by 2 leaves 1?

The sum is 2,519.

九を以て割れば八、八を以て割れば七、七を以て割れば六、六を以て割れば五、五を以て割れば四、四を以て割れば三、三を以て割れば二、二を以て割れば一を殘す數は如何

答　二千五百十九なり

小説　馴合婿

第九回　ふたば

「だつて貴君、積りにも知れて居るじゃ有りませんか、下山さんがさ。

「どうして、妙な事をいふね。

と、訝かしさに堪へねば、ゝケ〳〵とと元の顔を見て吾は問ひ返しぬ。

「だから平常貴君をれ坊さんといふのですよ、左樣いふと御腹を御立てなさるけれど、本當に小供の樣ですよ、何で下山さんが貴君に御緣の世話などなさるものですかね。

「夫じゃ今の噂を聞いて居たのか。

「聞いて居ましたとも、貴君は自分計り怜悧で、相手を呑んでかゝるから失策るのですよ。

と、日頃の心安す立に、遠慮も無く薄き唇を翻へす、流石にれ元も怜悧の女なれど、其處は女丈けの小賢に、何事も疑り深ければとて、用でも無き事に、石橋を叩いて渡る愚をなすなれ。

吾は素より町子を憎み、町子を呑んでかゝりたれど、眞逆に彼に手盛を喰さるは如き淺墓なる其似はなさゞるべし、若し果して町子が吾を欺き、吾を嵌めんと思ふからには、彼の婚禮談を持出して、何事も自分に利益の有る事ならねば、況して彼れが大切の鑑別を、思ひの身にて有りしならば、あらず、其心の苦しさは、打て碎いて責め叩かるゝ如きにも、吾を忍耐して、吾を忍耐して、吾をもつてし、目に血をもつてし、句にあらねば、兎ても其樣な義理とも知らず、は皮相の理屈にのみ走り、考へなければ、町子が、なり。

「いゝよ、心配しなくも、祝ひに一杯つけて、輕く待遇つて相手にしてやるも詮方なしに立上り、彼の「本當ですか、御腹と一人クス〳〵笑ひ、きね。彼が立際に笑ひの殘に觸りて、其忌々しく子供の頃より附添ひ居を燒きければ、今は立て、し、押しも押されもせず、だに吾を子供扱ひにす天下になしと、鼻高ん し。

ムシャクシャ腹の酒なは慥かに煽りて、一時ろ〳〵と、障子の桟へ打仕れ、前後も知らず車へ吾と躍子をのせて勢能さ、新夫新婦の紛中の人が見て行く、し、兎角夢にまで色止なり。

未だ婚禮の有無は分ら束したる見合ひの日を へて待て甘露の日和て四海穩かに治まれ豫て取置の黑縮のフ けて、玄鹿館の手巾を十四金の眼鏡の素透ひ落したる黑の高帽へる斗りに、天晴當世らよしと、蹴込みの飾音羽屋張りと誰が

「行つてゐらつしやとれ元が笑ひながら神田を指してゞ走り車夫の足は宙を蹴つて韋駄天といふ綽名を天車は疾く間にその ぬ、今迄勇みに勇み へ足をかけたる時は、樣なり。

堂々たる男子と自ら かと、吾れと我心を